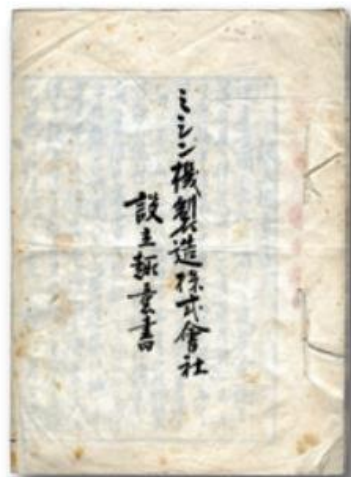


# ブラザーグループ新ビジョン

2021年10月6日  
ブラザー工業株式会社

# 新ビジョン策定の背景

## 創業より社会課題解決を目指し、お客様のニーズの変化をとらえ事業を変革



設立趣意書

- 一、働きたい人に仕事をつくる
- 一、愉快的な工場をつくる
- 一、輸入産業を輸出産業にする

### 創業の精神



1928年 麦わら帽子製造用環織ミシン

1932年 家庭用ミシン

1936年 工業用本縫ミシン



1961年 欧文ポータブルタイプライター



1971年 高速ドットプリンター



1976年 電子ミシン



1980年 電子オフィスタイプライター



1985年 CNCタッピングセンター



1987年 ファクス



1988年 ラベルライター



1991年 コンピューター刺しゅう機付きミシン



1992年 通信カラオケシステム



1994年 モノクロレーザープリンター



1995年 モノクロレーザー複合機



2005年 カラーレーザー複合機



1997年 インクジェット複合機



2005年 ガーメントプリンター



2012年 ギアモータ



2011年 ドキュメントスキャナー



2015年 コーディング・マーキング機器

### 売上収益推移

2015年度以前は日本基準の売上高



## “At your side.”の精神で事業活動を推進



あらゆる場面でお客様を第一に考える  
"At your side."の精神



「ブラザーグループ グローバル憲章」  
グローバルに展開するブラザーグループ  
すべての活動の礎

■ 社会の変化に加えて、ブラザーを取り巻く事業環境も変化している

## 社会の変化

- 働き方を始め、人々の価値観が大きく変化
- サステナビリティに対する要望が高まり、企業の存在意義・社会的価値を問う動きがグローバルで拡大
- 新型コロナの影響で変化が加速

## 事業環境の変化

- デジタル化、リモート化
- 製造現場における自動化・ネットワーク化の加速
- 購買行動の多様化
- 災害、感染症、地政学リスク等によるサプライチェーンリスクの高まり
- マスカスタマイゼーション需要の高まり

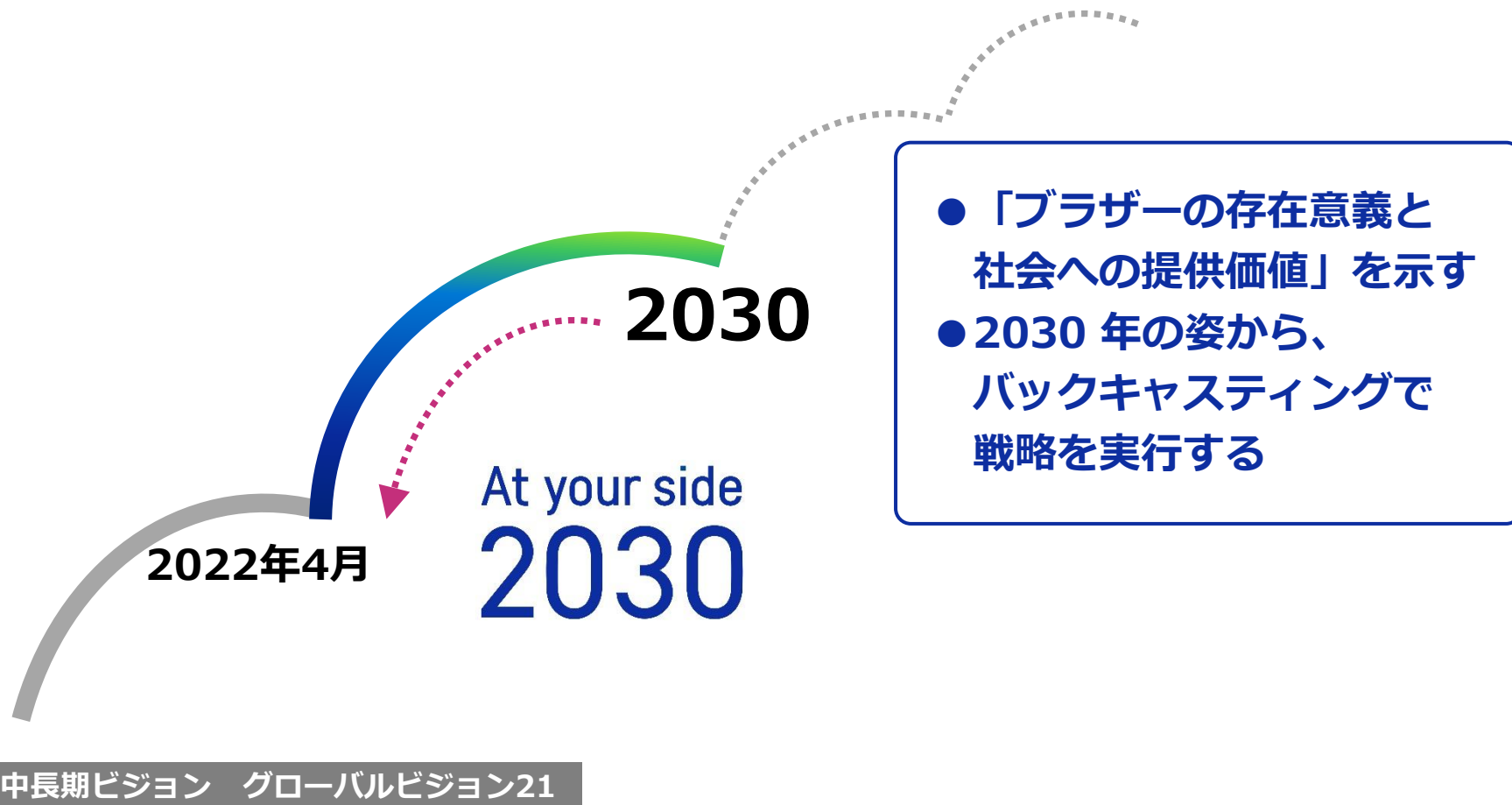
# 新ビジョン

ブラザーグループ新ビジョン

At your side  
2030

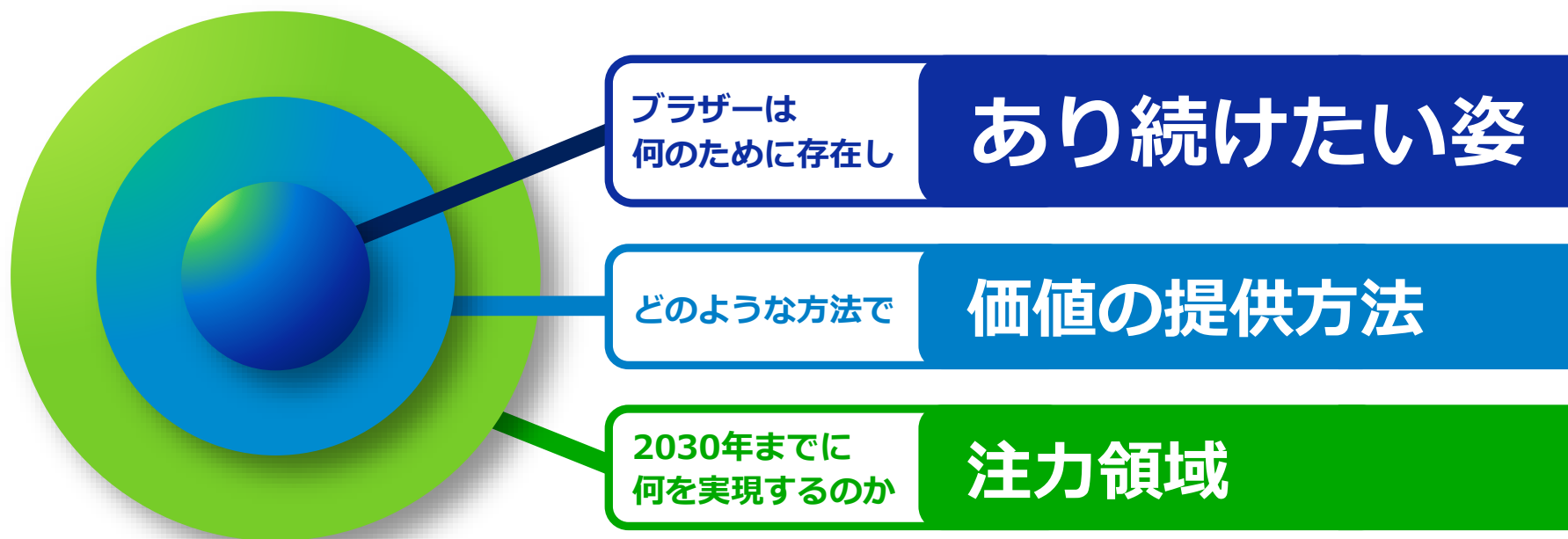
「ブラザーの存在意義と社会への提供価値」を示し

2030年という期限を明確に区切り、バックキャストで戦略を実行していく





2030 年に向けて、お客様と社会にどのような価値を提供するのか  
「あり続けたい姿」を起点に「価値の提供方法」「注力領域」を示す



# At your side 2030

あり続けたい姿

世界中の“あなた”の生産性と創造性をすぐそばで支え、  
社会の発展と地球の未来に貢献する

価値の提供方法

多様な独自技術とグローバルネットワークを強みに、  
お客様の成功へのボトルネックを見つけ解消する

注力領域

- ・産業用領域のかけがえのないパートナーになる
- ・プリンティングのオンリーワンを極め、次を切り拓く

## あり続けたい姿

# 世界中の“あなた”の生産性と創造性をすぐそばで支え、 社会の発展と地球の未来に貢献する

- 自らの生産性や創造性を最大限に発揮して、価値創出を行いたい、進歩し続けたいと願うすべての“あなた”のその思いを叶えるためにブラザーは存在します。
- そして“あなた”とともに、人と社会の持続的な発展を実現し地球環境への責任を果たすことで、よりよい未来に貢献します。

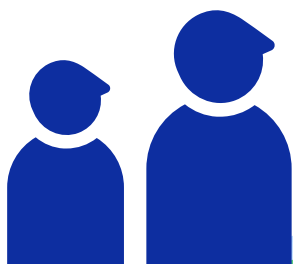
時代が移り変わっても、お客様をはじめとした“あなた”が本来持っている価値創出や  
進歩の力をすぐそばで支えられる存在として、よりよい未来に貢献する

生産性の向上

創造性の発揮

地球の未来

社会の発展



ブラザーグループ グローバル憲章 すべての活動の礎

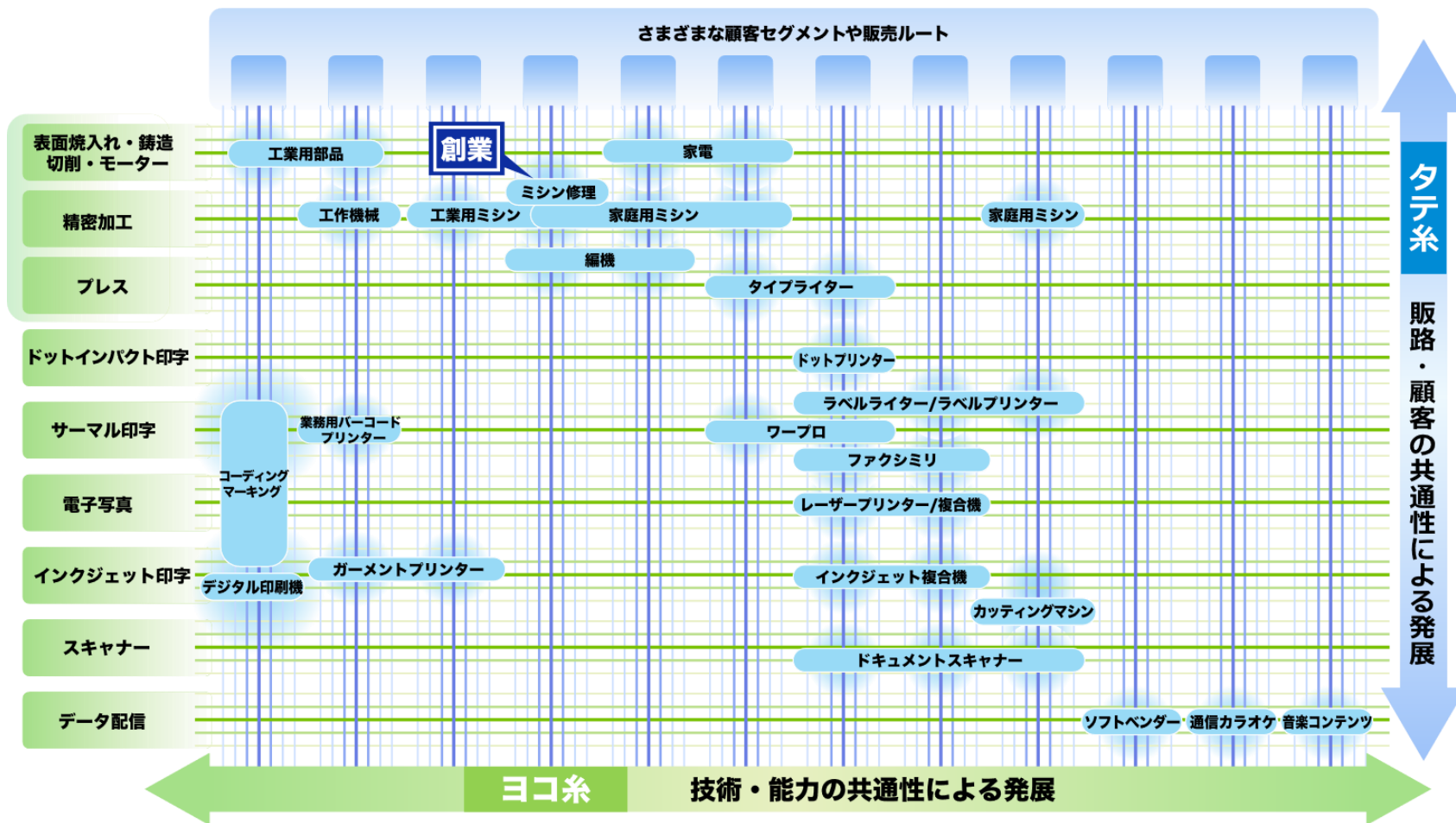


## 価値の提供方法

**多様な独自技術とグローバルネットワークを強みに、  
お客様の成功へのボトルネックを見つけ解消する**

- **グローバル複合事業企業ならではの強みを、外からの学びによりアップデートし続け、事業を越えて最大限に活用します。**
- **お客様のバリューチェーンに向き合い、真に解消すべき制約や課題を見つけ、モノづくりにとどまらない価値づくりを通じて、お客様のありたい姿を実現します。**

創業以来、技術または販路・顧客の連続性を活かし、新たな事業を生み出してきた。  
この連続性をタテ糸・ヨコ糸とし、織りなされた広がりがブラザー独自の強み



40以上の国と地域に広がる生産・販売・サービス・開発拠点のネットワークを活かし、外部からの学びを得ながら、グローバルチームブラザーで優れた価値を迅速に提供する



外部からの学び：パートナーとの連携

取引先

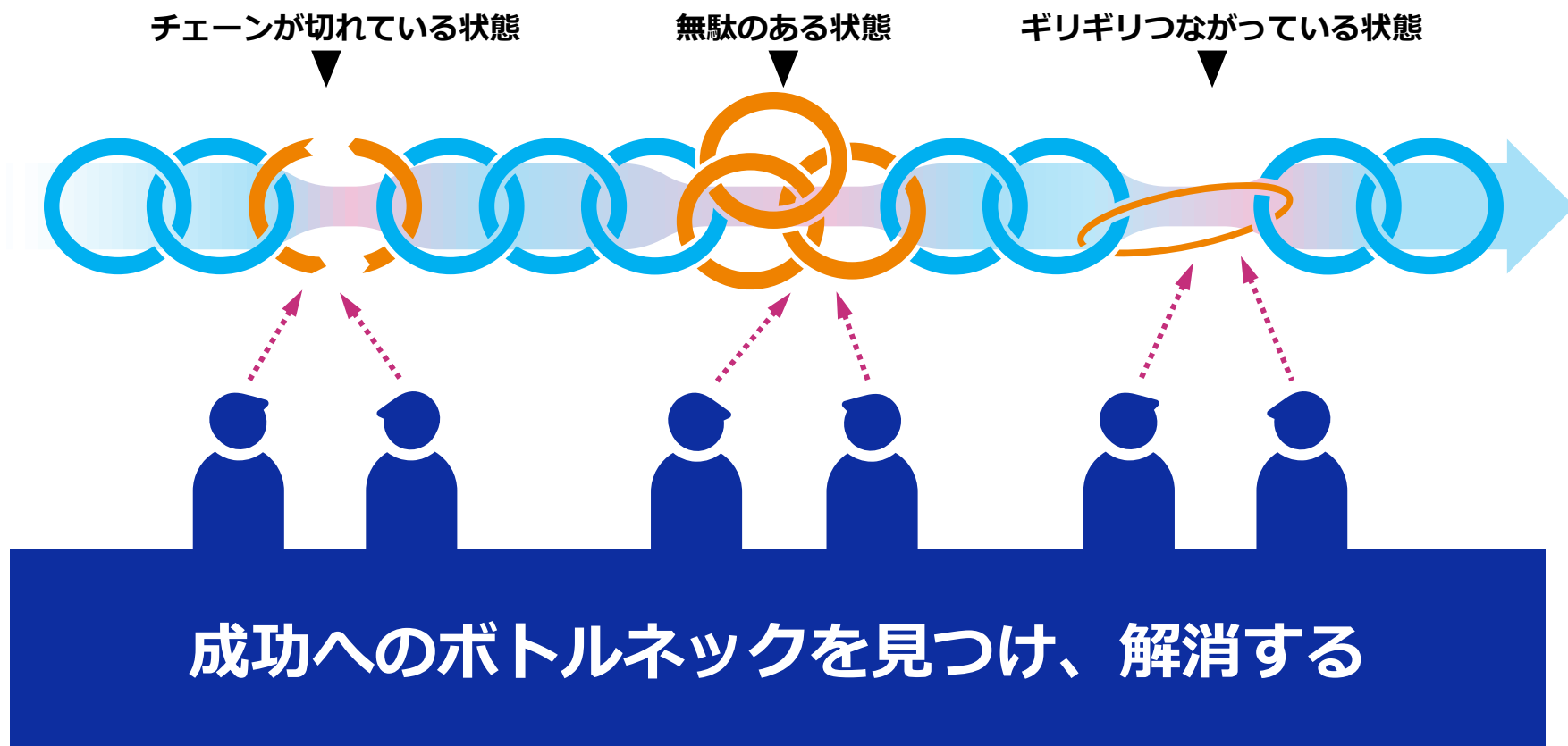
産官学連携

大学・公的研究機関

オープンイノベーション ……

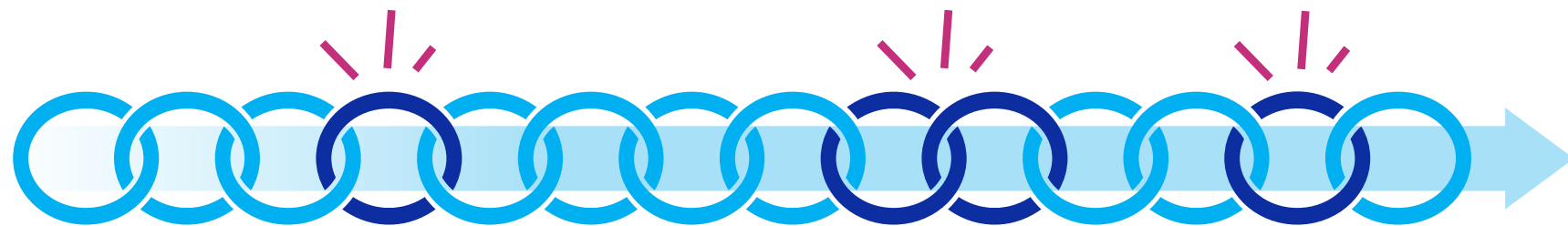
■ お客様のバリューチェーンに向き合い、その流れを妨げるボトルネックを見つける

### ボトルネックにより流れが妨げられているお客様のバリューチェーン





ブラザーにとって“モノづくり”は原点であり、その強みを活用しながら、デジタル技術の活用などの“コト”を強化し、お客様への提供価値の幅を広げ、ボトルネックを解消する



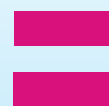
モノ



デジタル技術など



コト



## 注力領域

- **産業用領域のかけがえのないパートナーになる**

産業用途でブラザーの強みが生きる領域において、生産性の向上に加え働く人々や地球環境の課題を解決することで、ベストパートナーとしての信頼を確かなものにします。

- **プリンティングのオンリーワンを極め、次を切り拓く**

オフィスワークやプリンティングの意味合いが大きく変わる中であっても、働く人々の期待に応え続けるとともに、これまでの事業の枠を超えて新たな柱を築きます。

## ・ 産業用領域のかけがえのないパートナーになる

産業用途でブラザーの強みが活きる領域において、生産性の向上に加え働く人々や地球環境の課題を解決することで、ベストパートナーとしての信頼を確かなものにします。

### 領域

### 顧客課題と社会課題

マシナリー・FA\*

産業用印刷

生産性向上  
省人化

快適な労働環境  
CO<sub>2</sub>排出削減



ベストパートナー

\*ファクトリー・オートメーション

# ・プリンティングのオンリーワンを極め、次を切り拓く

オフィスワークやプリンティングの意味合いが大きく変わる中であっても、働く人々の期待に応え続けるとともに、これまでの事業の枠を超えて新たな柱を築きます。

## 領域

## 事業環境の変化と社会課題

レーザー・  
インクジェット  
プリンター/MFC

ラベルプリンター  
モバイルプリンター

周辺サービス・  
ソリューション

紙離れ  
在宅・リモート  
新商流  
デジタル化

CO<sub>2</sub>排出削減  
資源循環



次を切り拓く

オンリーワン・勝ち残り

**ブラザーグループは、110年以上にわたり  
“At your side.”の精神でお客様と向き合い、自らを変革してきました。**

**ブラザーはこれからも、社会の発展と地球の未来に貢献し、  
より多くのお客様の幸せに貢献できるよう、変化し続けていきます。**



# ブラザーの環境への取り組み

## 環境に配慮した製品および企業活動を実施

### 環境配慮製品の創出



- ・ 各国環境ラベル\*<sup>1</sup>の積極的な取得
- ・ 製品の省電力化
- ・ トナーカートリッジの回収・リサイクル

\*<sup>1</sup>ブルーエンジェル（ドイツ）、ノルディックスワン（北欧5カ国）、エコマーク（日本）など

### 世界の環境法規制と社会動向への対応



法規制に関するお取引先への説明会

- ・ ISO14001\*<sup>2</sup>に基づいた環境活動の推進
- ・ 「REACH規制\*<sup>3</sup>」「RoHS指令\*<sup>4</sup>」などの順守
- ・ 化学物質管理体制の確立

\*<sup>2</sup>製品の製造やサービスの提供など、自社の活動による環境への負荷を最小限にするように定めた国際規格

\*<sup>3</sup>化学物質の総合的な登録、評価、認可、制限に関するEUの制度

\*<sup>4</sup>電気・電子機器における特定有害物質の使用制限に関するEUの法律

## 環境に関する社会貢献活動、コミュニケーションを推進

### 世界各地での環境社会貢献活動の実施



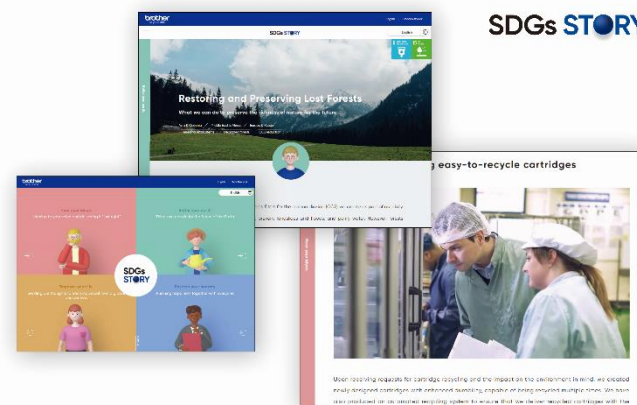
中国・砂漠化防止の緑化活動



タイ・マングローブ林再生活動

生物多様性保全を意識した活動をグローバルに展開

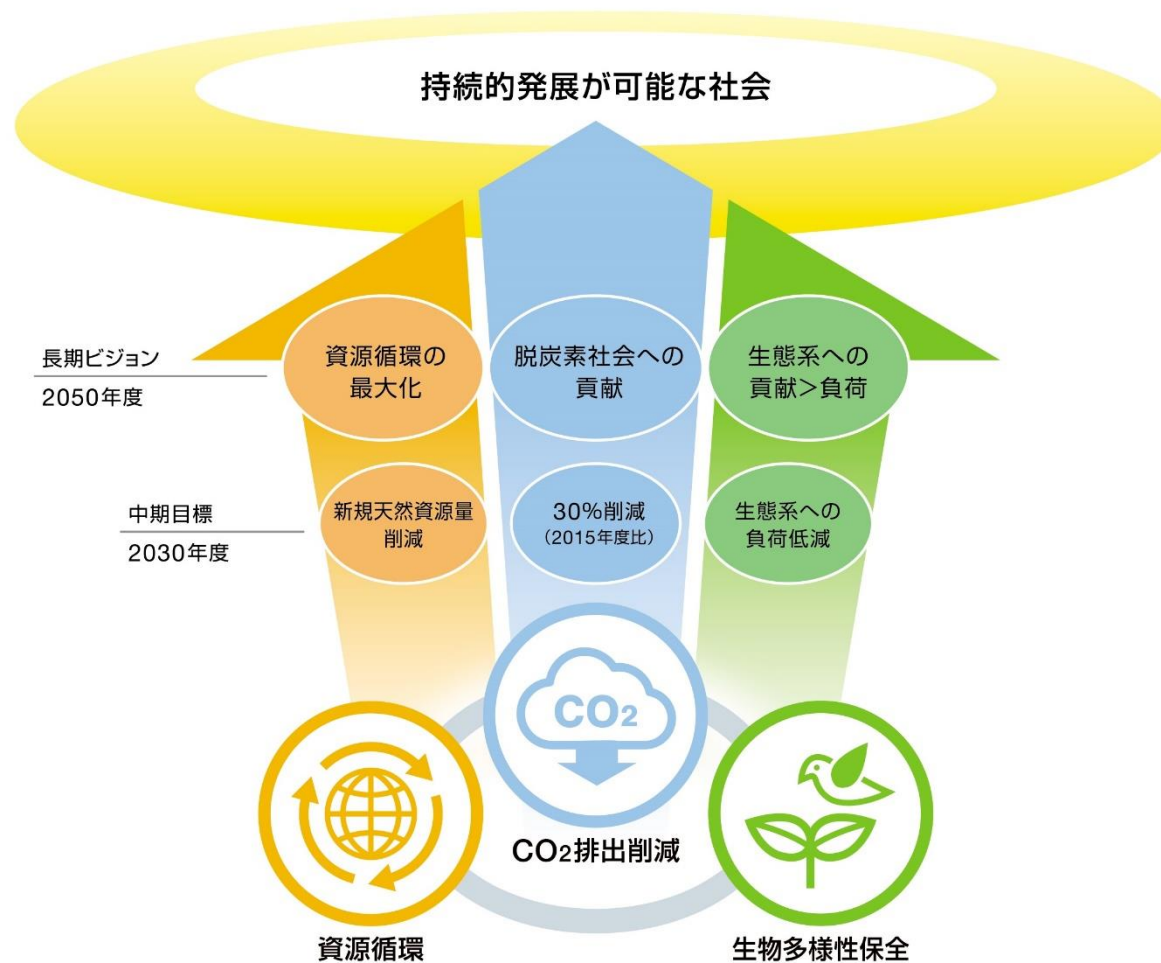
### 環境コミュニケーションの推進



- ・ 自社Webサイト“SDGs STORY”を通じた社外への情報発信
- ・ 従業員に対する環境教育の実施



2018年、持続的発展が可能な社会の実現に向けて、  
CO<sub>2</sub>排出削減、資源循環、生物多様性保全の3つの項目で2050年度までの目標を提示



## 2030年度のCO<sub>2</sub>排出削減目標は前倒しで達成

### SBT認定を取得



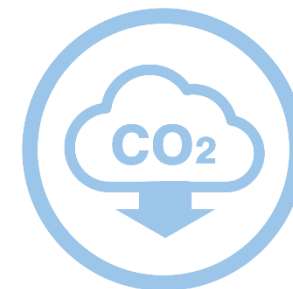
2018年にCO<sub>2</sub>排出削減目標が、  
Science Based Targetsイニ  
シアチブの認定を取得

### TCFDの提言に賛同



2020年に気候関連財務情報開  
示タスクフォース（TCFD）の  
提言への賛同を表明し、TCFD  
の提言に基づく情報開示を実施

### CO<sub>2</sub>排出削減目標達成



スコープ1、2において、2030  
年度目標で掲げた2015年度比  
30%削減を前倒しで達成

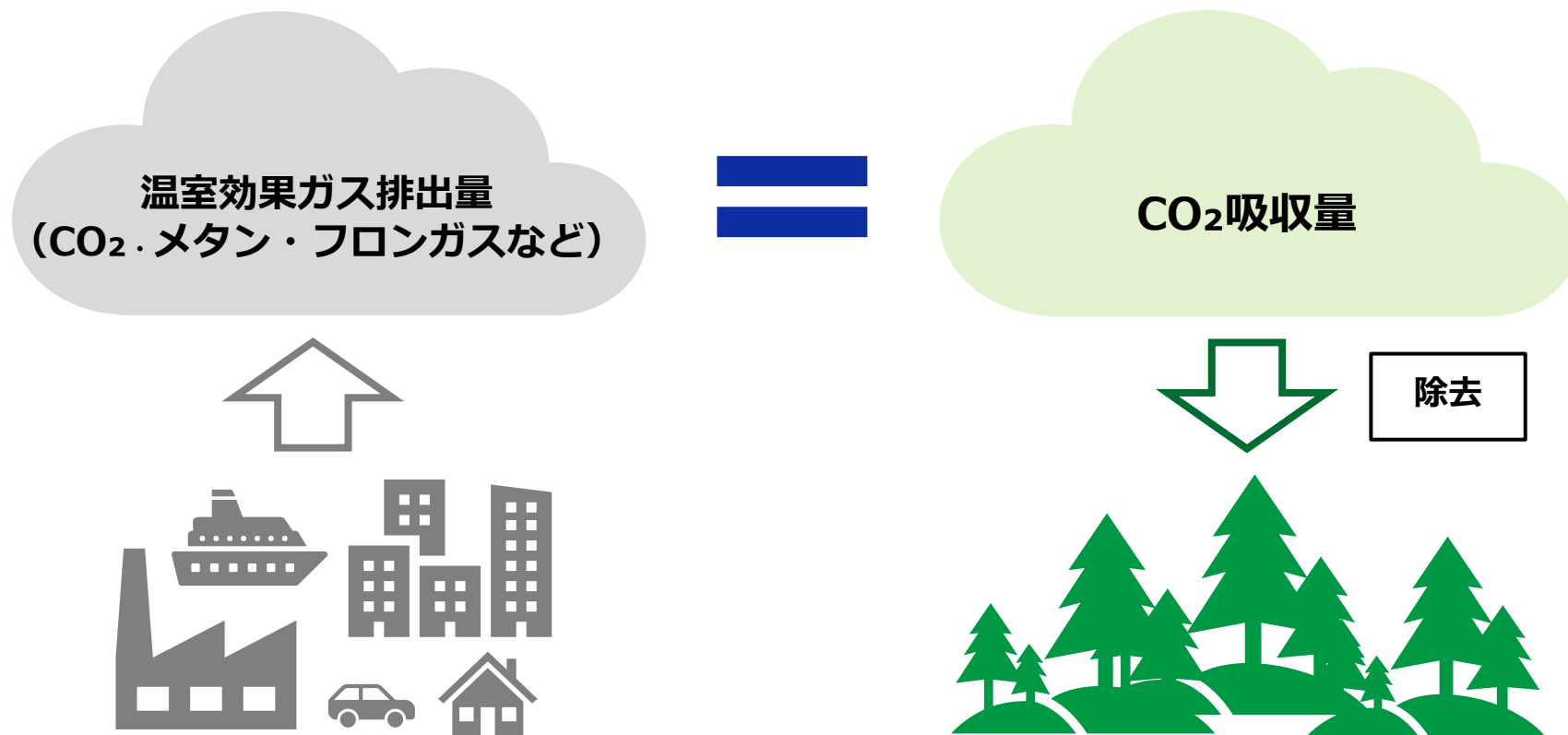
# 環境ビジョン2050の改定

CO<sub>2</sub>排出削減目標：2030年にスコープ1、2で2015年度比65%削減、  
2050年にあらゆる事業活動のカーボンニュートラルとバリューチェーン全体の  
CO<sub>2</sub>排出最小化を目指す

	2030年目標	2050年ビジョン
現行 CO <sub>2</sub> 削減目標	[スコープ1*1,2*2] 30%削減 [スコープ3*3(カテゴリー 1,11,12*4)] 30%削減	あらゆる事業活動でバリュー チェーン全体のCO <sub>2</sub> 排出削減に前向 きに取り組み、世界が目指す脱炭 素社会の形成に貢献している。
改定後 CO <sub>2</sub> 削減目標	[スコープ1*1,2*2] <b>65%削減</b> [スコープ3*3(カテゴリー 1,11,12*4)] 30%削減	<b>あらゆる事業活動のカーボン                      ニュートラル*5とバリューチェー                      ン全体のCO<sub>2</sub>排出最小化を目指し、</b> 脱炭素社会の形成に貢献している。

\*1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出  
 \*2：他者から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出  
 \*3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他者の排出）  
 \*4：製品の部材調達時、製品使用時、製品廃棄時のCO<sub>2</sub>排出量が削減対象  
 \*5：プラザグループから排出するCO<sub>2</sub>を全体としてゼロにする

CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出抑制に加え、排出せざる得なかった分について同じ量を「吸収」または「除去」し、差し引きゼロを目指すこと

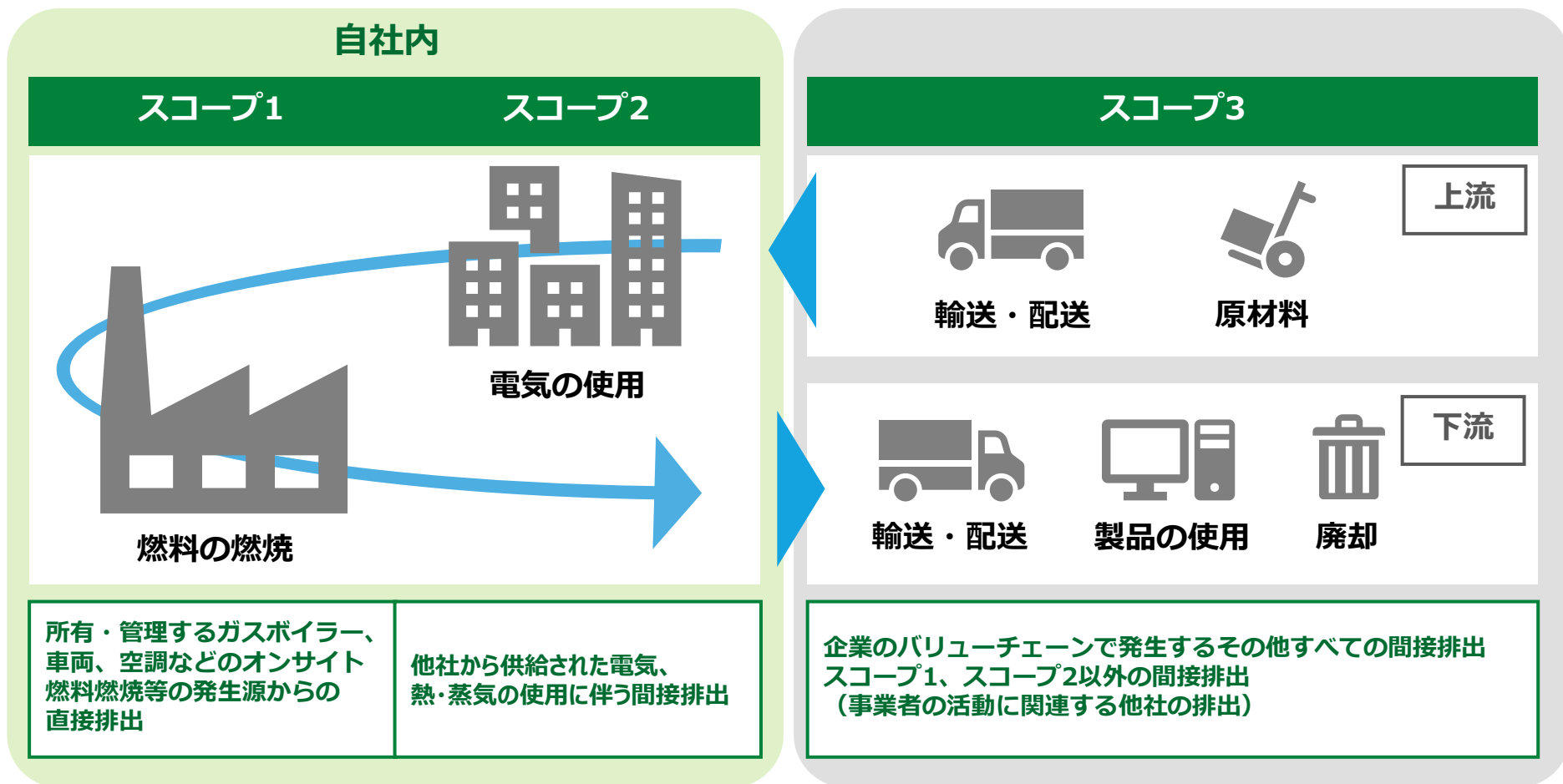


まずは排出する温室効果ガスの総量を大幅に削減することが大前提

スコープ1：事業者自らによる直接排出

スコープ2：事業活動で使用する電気などを生み出す際に発生する間接排出

スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出



## 世界各地のブラザーグループ拠点でカーボンニュートラル達成に向けた活動を推進



- ・ 省エネ活動の推進
- ・ 太陽光パネルの設置を中心とした創エネ活動
- ・ CO<sub>2</sub>フリー電力\*の購入 など

本社地区では、2026年度中の  
カーボンニュートラルを目指す



\*発電する際にCO<sub>2</sub>を出さない電力のこと

カーボンニュートラル達成を会社の優先課題としてさまざまな活動を強かに推進

サステナビリティ分野への  
投資を行うファンドに出資



サステナビリティ分野やDXなどのデジタル分野を投資分野に含むベンチャーファンド「WiL Ventures III, L.P.」に出資

水素利活用に関する  
取り組みへの貢献



ゼロカーボンシティを目指す福島県浪江町において、水素活用社会の実現に向け、水素輸送システムの実証実験を実施

気候変動に対応する  
部門を新設

気候変動対応戦略部

10月1日に気候変動対応をグローバルに戦略的に推進する専任部門として「気候変動対応戦略部」を新設



**brother**  
at your side